

積み重ね つみ重ねても またつみかさね

令和4年2月16日 No. 49 文責：佐野紳二

来年も笑顔あふれる学校に 第2回児童総会

15日（火）の3校時、今年度第2回目の児童総会が行われました。今回の児童総会の目的は、今年度の児童会活動の反省です。

例年ですと、第1回の児童総会のように3年生以上の児童が一堂に会して行われますが、今回はコロナの感染が広まっているため、オンラインでの実施となりました。提案や各クラスからの意見に対して答弁をする児童会本部の子どもたちは理科室に集合し、その他の子どもたちは教室でスクリーンや大型テレビに映された映像と手元にある資料を見ながら話し合いが進められました。

子どもたちの会議も今回はオンラインとなりましたが、我々教職員が行っている会議や研修会も、現在はほとんどオンラインの形で行われています。本校でも、先日行った2月の職員会議は職員室への長時間の集合を避けるためにオンラインで実施しました。最初は違和感や抵抗感が多少なりともあったオンライン会議ですが、最近はすっかり慣れてきた感があります。



今回の児童総会も、事前に児童会本部の1年間の振り返りが各クラスに配付され、事前にクラスごとの話し合いが十分に行われていたので、とてもスムーズに進みました。各クラスの様子も見てまわりましたが、どの子どもも画面にきちんと目を向け、児童会本部の提案や各クラスの意見にしっかり耳を傾けることができおり、全校の子どもたちの「やる気」が感じられる会でした。

さまざまな教育活動がコロナの影響で従来とは違ったかたちを取らざるを得ない状況の中でしたが、児童会では開催時期をずらしたり、取組方法を工夫したりしながら今年度のテーマ「全校で育てよう！豊かな心～笑顔の咲く花あふれる日本一の学校～」を実現させるため、さまざまな活動を進めてくれました。中でもお誕生日の紹介や児童会だよりの発行、北小オリンピックの実施などの活動は、全校の子どもたちから評価されました。

今回の児童総会をもって令和3年度の児童会の活動は終わりになり、これからは新児童会による活動がスタートします。今回、話し合われた今年度の活動の反省を生かし、さらに改善をしていくことによって、令和4年度の児童会活動がさらに素晴らしいものになると思います。これまで児童会活動を引っ張ってこられた6年生のみなさん、ありがとうございました。5年生のみなさん！がんばって。期待しています！



「正義」とは 教科書教材「やなせたかし —アンパンマンの勇気」より

先週の学校通信でオリンピックのことについて書かせていただきました。オリンピック期間中、連日のように関連するニュースが伝えられているので、「世の中の関心はそこに集まっているのかなあ…」なんて漠然とっていると、ある報道番組で採り上げられていた「今週のニュースアクセスランキング」の1位は、オリンピックではなく、ウクライナ関連のニュースなのだそうです。国と国の間のことですし、多くの国が関わる難しい問題のようですので、このことについての言及は避けたいと思います。ただ、多くの人が苦しむ争いや戦が起こらないことを願うのみです…。

ニュースを見ていた時、私の頭の中に浮かんだのがアンパンマンの作者、やなせたかしさんのことです。アンパンマンや唱歌「手のひらを太陽に」の作者として有名なやなせさんのことはきっと皆さんご存じでしょうし、たくさん著書があるので、きっとやなせさんがアンパンマンというヒーローを描いた経緯についてもご存じの方は多いと思います。また、令和2年度の教科書改訂により、光村図書5年生の国語の教科書にやなせさんの伝記が掲載されてからは、多くの子どもたちもその考えに触れる機会を得ています。その教科書教材の中に、次のような一文があります。

戦争が終わってからずっと、たかしの頭からは、「正義とは何だろう。」という問いがはなれなかった。

「どの国も、自分たちこそが正しいと思って、戦争をする。でも、戦争は結局、殺し合いだ。いろいろなりくつつをつけて戦うけれど、正義の戦争なんていうものは、ないんだ。」

たかしは考え続けた。

「じゃあ、この世に正義はないのだろうか。みんな自分勝手に生きているだけなのか。それじゃあ、あまりにむなしすぎる。」

戦後の日本は貧しく、着る物も食べる物も不足していた。あちこちに空襲の焼けあとも残っている。たかしは生活のために、高知で廃品回収の仕事を始めた。そんなある日、たかしは道ばたで、幼い兄弟がおにぎりを分け合っているのを見た。服はよごれていたが、2人とも幸せそうに笑っていた。そのえがおを見て、たかしははっとした。

「本当の正義とは、おなかがすいている人に、食べ物を分けてあげることだ。」

戦争は人を殺すことだが、食べ物を分けることは、人を生かすことであり、命をおうえんすることだ——そう気がついたのだ。

「今も世界中に戦争をしている国があって、あの時のぼくよりもっと苦しい思いをしている人たちがいる。うえて死んでしまう子どももいる。その人たちを助けるのは、どんなときにも正しいことのはずだ。」

世の中にはいろいろな人がいて、立場や考え方、暮らし方や習慣、信じているもの…それぞれに異なっています。そんな中で、「自分だけが正しい」と思ったとき、それ以外の人が「敵」になってしまう…そんなことがあるような気がします。やなせさんはこんなことも言っているそうです。

正義って相手を倒すことじゃないんですよ。

アンパンマンもバイキンマンを殺したりしないでしょ。

だってバイキンマンにはバイキンマンなりの正義を持っているかも知れないから。

やなせさんは94年の生涯の中で、たくさんつらい経験をなされたそうです。そんなやなせさんの言葉には、心に沁みる言葉がたくさんあります。機会があったら、5年生の教科書や、やなせさんの著書に触れてみるのもいいかも知れませんね。

